



特別編

この方にお話を伺いました



Profile
教育ジャーナリスト
マザークエスト 代表
中曽根 陽子さん

教育現場への取材、執筆、講演活動など、教育ジャーナリストとして活躍。また子どもの才能を開花するためには、母親自身が学び、視野を広げることが大切だと考え「マザークエスト」を立ち上げる。

子どもたちに身につけさせたい「21世紀型能力」を知っておこう

「21世紀型能力」とはこれからの社会で求められる資質や能力のこと。基礎力、思考力、実践力の3つの力を学校教育の中で育てることを目標としている。小中高などの教育現場の取材、執筆で活躍する教育ジャーナリストの中曽根陽子さんに、21世紀型能力の考え方や、これからの子どもたちに必要な力についてお話を伺いました。

【21世紀型能力】

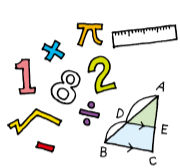


※国立教育政策研究所(2013)より

「基礎力」の中の3つのスキル



〔言語スキル〕
言葉を正確に理解し、使う力のこと。言語能力を鍛えると、日本語はもちろん、英語の会話能力もUPするといわれている。



〔数量スキル〕
数理的な力。従来の読み書き計算だけではなく、距離・量・回数・見込み等の数量的な感覚を養うことが目的。



〔情報スキル〕
ITの進化とともに、パソコンやタブレット操作はもちろん、多くの情報を取捨選択する力も必要になってきている。

基礎力をベースに、思考力と実践力を併せ持った人材の育成へ

21世紀型能力とは、日本の教育が目ざす「生きる力」をはぐくむための具体的な方向性として、21世紀に求められる人間の資質・能力を定義したもので、国立教育政策研究所が2013年に整理し、発表しました。これからの学校教育では、これからの目標とされておられ、小中学校でも取り組みが

が始まっています。

21世紀型能力の土台となるのは、「基礎力」です。昔からこの基本的な学力を身につけることが、学校教育の役割だとされてきました。これに変わりはありますが、21世紀型能力では「国語力」や「数理的な力」に加えて、情報(I-T)を使いこなす力も含めていくのが特徴です。

これまでの、この基礎力の育成が中等教育までのほとんどを占めていました。しかし、「生懸命勉強して、いくらいろいろ知識や技術を身につけても、それだけでは社会では生かせません。身につけた知識や技術をもとにしながら考えること、つまり「思考力」を育てることが重要です。

思考力は、様々な課題を解決するための中心となる能力です。ここでいう思考力とは、一人ひとりが自分の考えを持ちながら他の人と話し合い、考えを比較・吟味してまとめ、より良い答えや新

しいアイデアを考え、さらに次に学ぶべきことを見つけて力まで含まれています。

さらに、考えたことは、実行(実践)されなければ意味がありません。とくにこれからは、環境問題やエネルギーの問題、人口問題など、国をまたいで皆で協力しながら解決しなくてはならない課題がたくさんあります。日常生活や社会、環境の中に問題を見つけ出し、自分の知識を総動員して、社会にとって価値のある答えを導くことができる人を育成しなくてはなりません。



【探求型学習の一例】

「アクティブラーニング」や「プロジェクト学習」などの探求型の学習が重要に

最後に…

Aの進化による影響など、子ども達が歩んでいく道は、私たちが親が経験した以上に変化が予測しづらい時代です。そんな時代を生き抜くために何より大事なことは、失敗を恐れずにチャレンジするタフさと、心が折れそうになっても、そこから立ち直る力を育てること。それを私は「失敗力」と名付けました。失敗というのは、自分の能力以上のことにチャレンジした結果であり、上手くいかない方法がわかったということですから、進歩なのであります。ぜひお子さんの好奇心を妨げず、親の手元にいる間に、チャレンジさせてあげてください。子どもは安心して、自分から力を発揮します。

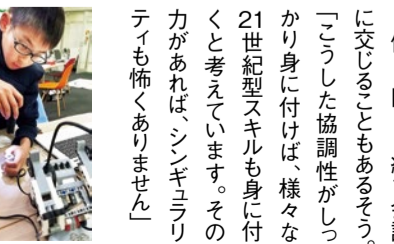
このような21世紀型能力を身につけるために、小中学校で導入されはじめているのが探求型の学習です。探求型学習とは、先生が一方的に教えるのではなく、生徒がみんなで協力しながら主体的に学ぶ学習のこと。その中で、自分で考え、表現することを大切にします。いわゆる「アクティブラーニング」と呼ばれるものも、その一つですが、それは手法であり、内容は様々です。

私立中高などでは、以前から探求型、能動的な学習を軸に置き、昨今では自分たちで課題を設定して解決していく「プロジェクト学習」や学校

での学びと社会との関連性を教える「キャリア教育」を組み合わせた教育を行っている学校が増えてきています。

また新学習指導要領で小学校でのプログラミング教育の必修化が決まりましたが、これはプログラミング言語の使い方だけでなく、プログラミング教育を通じて、物事には手順があり、手順を踏むと物事をうまく解決できるといった、論理的に考えていく力、プログラミング的思考を育てることが本来の目的であると言われています。これは、21世紀型能力にも通じるものです。

高槻
ロボットプログラミング教室
プログラボ
高槻市細屋町3-1
グリーンプラザたかつき3号館
2F 214号
JR京都線 高槻駅 すぐ
阪急京都本線 高槻市駅 徒歩5分
080-1433-2057
http://www.proglab.education/



ARやVR、マルチメディアコンテンツ制作のプロジェクトや、読売テレビのアニメやバラエティ番組のHP制作など、様々なIT制作の現場に携わってきたプログラボ高槻教室の吉井室長は、プログラボの立上げスタッフのひとり。

吉井室長「単に遊んで仲良くするのはなく、楽しくアイデアをぶつけながら考えています。子どもの時代から学んでおきたい、先入観の無い全ての子どもたちの頭の中はアイデアの宝庫だからです。実際に

合い、ひとつの目標へと向かうプロセスを昇華し続け、「みんな」でよりベストなソリューションを生み出せる力を育む。ものづくりの場合、どんな天才でも、ひとりではひとりの力で出来るものが限界。優れた個人の力が集まって、より優れた新しいものが生まれる。そのことを子どもに教えるべきです。

「メタ認知」を育むために、生徒たちの会話に耳を傾け、同じ目線で会話を交わすことも重要そう。こうした協調性がしつかり身に付けば、様々な21世紀型スキルも身に付くと考えています。その力があれば、シンギュラリティも怖くありません」

そうした授業を通して、開始4か月の授業で参加したロボット大会で大阪大会から全国大会まで進んでくれました。」

言葉遣いや他人への迷惑などは注意するが、多少のふざけ合いは自由にして、そこから生まれるアイデアを大事にしているとのこと。会話の中に現れたアイデアを見出だす「メタ認知」を育むために、生徒たちの会話に耳を傾け、同じ目線で会話を交わすことも重要そう。

21世紀型能力
ロボットプログラミング

menu

- ピギナーコース(年長~2年生) 9,000円(月3回・税抜)
- スタンダードコースI(小学1~3年生) 9,000円(月3回・税抜)
- スタンダードコースII(小学3年生~中学生) 11,000円(月3回・税抜)
- アドバンスコースI(小学4年生~中学生) 11,000円(月3回・税抜)
- アドバンスコースII,III(小学5年生~中学生)

※アドバンスコースは順次、I→IIとコースを増やしていく予定です。

無料体験会
開催中!

詳しくはHPにて [プログラボ](#) で検索